

リサの怒り 【高学年4 - (2)】

- 総合的な学習の時間の体験を生かして -

(1) 主題名 町をきれいに [4 - (2)] 関連項目 [4 - (4)]

(2) ねらい 公徳心をもって、法やきまりを守るとともに、自分の役割を果たそうとする態度を育てる。

(3) 資料名 「リサの怒り」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 総合的な学習で行った地域のクリーン活動を思い出し、感想を聞き合う。	<p>みんなでクリーン活動をして、どうでしたか。思ったことなどを聞かせてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんゴミがあって、驚いた。 ・掃除をしてきれいになったので、気持ちがよくなつた。 ・しんどかった。 	活動をしているときの写真などを掲示し、想起させる。
展開	2 資料「リサの怒り」を読んで話し合う。	<p>リサはだんだんと腹が立ってきて、とうとう何と言ったでしょう。書き込んでみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいかげんにしてよ。このままでいいと思っている。 <p>こうやってクリーン活動をすることは、本当に無駄ではないのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無駄ではない。やっている姿を見て、ゴミを捨ててはいけないと思ってくれる人がてくれる。 ・いくらやったってまた捨てられるのだったら、無駄かな。 	<p>資料の「」の中にリサの言葉を書き込み、発表させる</p> <p>議論の中で、理由付けをきちんとさせる。また、無駄ではないという考えに対して、「いつまでこの活動を続けたらいいのかな。」と、搖さぶりをかけることも必要である。</p>
開拓	3 自分の生活を振り返る。	<p>リサもみんなと同じように、いろいろ考えたみたいです。次の日の朝の会です。リサが手を挙げて何か言っています。なんと言っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくらやったってゴミを捨てる人がいれば、またたまるから無駄かもしれないけど、自分たちの町だからきれいにしているよ。わたしたちだけでもゴミを捨てないようにしていこうよ。 	ワークシートに書き込み、発表させる。
終末	4 地域で奉仕活動をしておられる方の話を聞く。	住みよい町にしていこうと、活動しておられるさんが、今日は来てくださっています。どんな思いでずっと活動を続けられているのか、聞きましょう。	児童の意欲を高める話をしていただくために、事前の打ち合わせを十分にしておく。

リサの怒り

今日は、総合的な学習で学区内の公園掃除をする日だ。かねてから、リサたちのグループが、自分たちの住んでる町をきれいにしようと計画を立て、五年生全体であることに決意したのだ。

しかし、リサにはひとつ気がかりなことがあった。それは、二日前の日曜日に地域の奉仕活動でクリーン作戦が行われ、たくさんの人人が町内の掃除をしたばかりだったからだ。リサも母と一緒にクリーン作戦に参加し、町の人たちのマナーの悪さに驚き、たくさんのごみを集めて回ったばかりなのである。

あれから二日、公園はきれいなままだらうか。それともまたゴミがこぼこしてあるのだろうか。期待と不安をもぢながらリサたちは、軍手をはめゴミ袋をもつて出発した。学区内の公園は、六つある。リサたちの担当の公園は、いつも同じクラスの男子たちが休みの日によく遊んでる公園だ。

（ゴミが捨ててありませんよつて……）

と、祈るような気持ちで公園までの道を歩いた。

残念ながら、リサの祈りもむなしく公園の水道の回りには、水風船のびんがいがいっぱい散らかっている。植え込みの中にはジュークの缶や、お菓子の袋、まだおかずの残ったコンビニ弁当の入ったビニール袋。犬のふんはあちこちに散乱している。

「ああ、なんで？」この前掃除したばかりなのに……

初夏の暑い日差しの中、リサたちは一生懸命分別しながらゴミを集めめた。ふと気がつくと、男子たちの姿が見えない。どこへ行ったのかと周りを見回すと、なんと水道のといりで水のかけ合いをして遊んでいる。良夫にいたつては、木陰のベンチに寝そべって拾ったマンガを読んでる。

「もひ、ちやんとゴミを拾つてよ。こんなことたぐさんあるのよ。」

とリサと祐子が大声で叫つて、男子たちは

「はいはー、わかりました。」

としじぶしじぶ反対側の植え込みの方に肩を組んで歩いていった。

終づの時間になつたので、ゴミをまとめて学校に帰ることになつた。帰つながらリサは（他の公園はやつだつたのだから）。わたしたちのところへ向かいつつぱりゴミがあつたのだろうか。）

と不安になつた。

学校に帰つてみると、なんと他の公園もたくさんのがみだつた。「われた自転車や、ストーブもある。

「地域の掃除があると聞くと、前の日にわざと大型ゴミを捨てる人もいるみたいだ。」

ヒ となりにいた祐子が言った。

(わたしたちの町の人つて……)

今日の活動のまとめの言葉を貰わなければならぬといふことにドヘンたれやい
けないと思ひ、

「今日せ、とても暑い中、苦労様でした。これでわたしたちの町もきれいになつました。

この次の掃除は、来月の十七日です。また、がんばりましょう。」

と言つた。すると、「ええ、また来月もやるんか? やめよつやあ。こへりやつたつてまだハリがこつぱついた

まるんじやんか。無駄なことは、やめましょ。」

と、良夫が言つた。さつき水遊びをしていた男子たちも

「そつだ、そつだ。」

と、声をそろえてはやしたてた。

「きたないから、みんなで掃除するんでしょ。しなかつたらわたしたちの町せハリの町にな
なつてしまひじゃない。」

「じやあおれたちは、人が捨てたゴミをいつまでもこいつやって捨い続けるわ。」

「ちょっと待つて、それはおかしいんじやない? あの公園に捨ててあつた水風船のせん
がい、誰が捨てたか、わたし知つてるわよ。」

と、祐子が口をはさむと、何人かの男子は真つ赤な顔をして下を向いた。でも、

「いいじゃないか、どうせ誰かが掃除してくれるんだから。別にハリヒトなどないじや
ん。」

ヒ 良夫は平氣な顔をして言つた。

リサは、だんだんと腹がたつてきた。そしてヒヒヒ

「。」

ヒ 叫んでしまつた。

活用に生かすための実践報告

「リサの怒り」

1 主題の設定

規範意識、公徳心については様々な理由によって、今日では低下している状況にあると言つてもよいであろう。子どもたちを取り巻く環境や社会情勢が変わっていくとともに、子どもたちも変わってきている。特に善悪の判断や約束やきまりを守るという規範意識の低下にともない、集団の一員としての自覚をもって行動するという公徳心も十分に育っていない。高学年ともなると、資料を使っての道徳の授業では環境問題とも関連させながら、とてもすばらしい意見や、考えを述べる。しかし、実生活の場においては、落ちているゴミ一つ自ら進んで拾おうとしない。また、見て見ぬふりをすることが多い。みんなが社会の一員として公徳心を持って生活していくなければならない。そのみんなの中には、自分は入っていないのである。自分以外のみんながそうすればよいという意識。あるいは、分かっているけどいざ行為になると抵抗感があり、一步が踏み出せないという状況でとどまってしまうのだろうか。

そこで、まず変わらなければならないのは他の人ではなく自分であることを自覚させ、身近なところに献身的に奉仕活動をしておられる人がいることにも気付かせたい。

2 指導過程の工夫

できれば、この道徳の授業の前に総合的な学習の時間に地域の清掃活動などを体験しておくと、とても効果的である。また、体験がない場合は、地域の公園などのゴミが散乱している写真やビデオを見せる方法もある。

展開では、無駄なことか無駄ではないかについて、本音を出し合いながらしっかり議論することによって、自分自身の意識と行為が現状を変えていくことに気付く。

終末では、ゲストティチャーを招くことが効果的であると思うが、難しい場合は、事前に奉仕活動をしておられる方にインタビューしたビ

デオを見せたり、実際に活動しておられるところをビデオに撮っておき、見せる方法もあるだろう。また、校長先生に終末の話をお願いするのも、効果がある。

3 発問の工夫

展開の「無駄であるか、無駄ではないか」についての議論の中で、教師側が揺さぶりをかけることが必要である。無駄ではないという考えにクラスが流れ始めたら、「じゃあ 私たちも含めて、いつまでこんなクリーン活動を続けていくの？」と。無駄だという方に流れ始めたら、「みんながそう考えてクリーン活動をしなくなったら町はどんなふうになるだろう。」と。そうすることによって、子どもたちは根本的な問題点に気付き始める。

4 児童の反応（授業後の感想）

（ワークシートより）

- ・みんな、町をきれいにしたい気持ちがちょっとでもあるのだから、協力して私たちの町をきれいにしていこう。
- ・クリーン作戦が無駄だと言われてとても悲しかったです。町が汚くなってもいいんですか。ゴミは持って帰ってください。また、拾ってください。
- ・どうせゴミが出るけど、みんなでがんばっていたらゴミが絶対になくなるよ。だからみんながんばろう。

5 実践者からの一言

公徳心の問題については、子どもだけでなく私たち大人に大きな責任があると考える。そして、とても耳の痛い話で、分かってはいるけどつい・・・、という本音の部分をさけて議論できない。教師も子どもも同じという気持ちを持って授業に当たり、授業後は一緒にになって互いに評価し合いながら行為として実践していくことが大切である。きっと教師と子どもたちの距離も縮まり、信頼関係も深まるであろう。

（東浄小学校 川手香苗）